

令和4年度第1回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

1 日 時 令和4年10月27日（木）午前10時～12時

2 会 場 羽曳野市役所 本館4階 北会議室

3 出席者

1号委員（金融関係）	大森 健司	株式会社りそな銀行羽曳野支店 支店長
1号委員（教育関係）◎	岡島 克樹	大阪大谷大学人間社会学部人間社会学科 教授
1号委員（労働関係）	林 耕司	藤井寺公共職業安定所 所長
1号委員（産業関係）○	原 誠	羽曳野市商工会 会長
1号委員（産業関係）	山本 修	近畿日本鉄道株式会社古市駅 駅長
2号委員（市民代表）	田中 佐由美	羽曳野市更生保護女性会 会長
2号委員（市民代表）	中川 哲男	羽曳野市連合区長会 代表
3号委員（市議会議員）	金銅 宏親	羽曳野市議会 議長
3号委員（市議会議員）	外園 康裕	羽曳野市議会 副議長

◎座長 ○副座長

羽曳野市長 山入端 創

事務局 市長公室政策企画室 室長 塚本圭祐

市長公室政策企画室政策推進課特命事業推進室 室長 松村光男

特命事業推進室 主幹 山中智弘

市長公室政策企画室政策推進課 課長補佐 尼丁香奈

4 資料

- ・資料1 現行総合戦略の効果検証
- ・資料2 羽曳野市転入・転出者調査
- ・資料3 市民アンケート分析資料
- ・参考資料① まち・ひと・しごと創生基本方針2021について
- ・参考資料② 「第2期大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」改定概要
- ・参考資料③ 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議規則
- ・参考資料④ 年間スケジュール（案）
- ・参考資料⑤ 羽曳野市転入・転出者アンケート調査結果（速報）

5 内容

【次第1 開会】

【次第2 委嘱状交付】

【次第3 市長挨拶】

本日、第1回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議に、委員の皆様にはご多忙のところ出席いただき厚くお礼申し上げます。

全国的な問題である少子高齢化や人口減少は、羽曳野市においても同様に、加速的に進みつつある。この人口減少は地域における消費や需要を低下させるとともに、労働力の減少による経済活動の縮小と低迷化を引き起こすこととなる。さらには経済活動が縮小することで雇用が不安定となり、結婚への不安、出産率の低下につながり、結果的にさらなる人口減少と少子高齢化が進むという負のスパイラルに陥る原因となる。今後、羽曳野市が持続可能なまちとして発展を続けるためには、人口減少のスピードを少しでも緩和し、ソフトランディングさせることが重要と考えている。

そのような中、地域資源を生かした観光によるまちづくりを推進していくため、本年10月には「大阪はびきの観光局」を設立した。また、教育や子育て施策の充実を図るため、ICT教育の推進や子ども子育て施策を一体的に推進するための「こどもえがお部」を創設するなど、様々な取組みを力強く前に進めている。

こうした状況を踏まえ、第2期戦略においては、定住の促進、地域経済の活性化、まちの魅力向上を、3本の柱として市が取り組むべき事業の方向性を示す計画とし、羽曳野市全体に好循環を生み出すことで、人口減少など課題解決につなげ、持続可能なまちとして羽曳野市を創生していきたいと考えている。

第2期戦略の策定に向け、委員の皆様の貴重なご意見をいただき、今後の羽曳野市が進むべき方向を示すものにまとめていただくことをお願いする。本日も活発なご意見をいただき、実りある会議としていただきたい。

<事務局>

本日が第1回目の会議ということもあり、委員の皆様より簡単に自己紹介をお願いしたい。

<各委員自己紹介>

【次第4 座長・副座長選出】

<事務局>

参考資料③「羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議規則」第4条には、「推進会議に座長及び副座長を置き、委員の互選によりこれを定める」とある。どのような選出の方法とするか、ご提案などあれば出していただきたい。

<委員>

事務局一任でお願いします。

<委員>

異議なし。

<事務局>

事務局一任のお声をいただいたので、事務局案を提案させていただく。座長には、富田林市等で総合戦略策定に有識者として携わった大阪大谷大学人間社会学部人間社会学科教授、岡島委員に、副座長は本市の商工業の振興にご尽力いただいている羽曳野市商工会会長、原委員にお願いしたいがどうか。

<委員>

異議なし。

<事務局>

異議なしのお声をいただいた。ご賛同いただき、座長には岡島委員が、副座長には原委員が選出された。

【次第5 座長挨拶】

皆様のご賛同を賜り本推進会議の座長を務めることになった。微力ながら職責を全うすべく努める所存であり、よろしくお願いします。

本推進会議は第2期となる羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関して、まち・ひと・しごと創生に関係する企業や団体、市民団体、市議会など様々な団体から参加され招集される会議として、市長の諮問に応じて審議し意見を述べる会議となっている。

「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は「まち・ひと・しごと創生法」に位置付けられ、住民と地域経済に好循環を促し持続的なまちの発展につながることを目的とした戦略である。羽曳野市においても第1期となる戦略が平成28年3月に策定されている。第1期戦略策定から約7年が経過し、これまでの効果検証結果などを踏まえながら、今回改訂に向けた検討を行うこととなるが、この間、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、計画当初に想定していた目標などについて、その達成度合の判断が非常に難しいものもあると考えている。

そのような状況において、第2期目となる羽曳野市総合戦略においては、国や大阪府で策定されている新たな総合戦略も踏まえながら、感染症による意識・行動変容をはじめ、デジタル技術の発展、エネルギー問題、脱炭素化社会など、新しい社会的要素を加え、今後の羽曳野市の目標を設定し、新しい市の戦略として取りまとめすることとなる。

本日も含め、3回にわたって推進会議の開催が予定されている。推進会議委員の皆さんの建設的なご意見と活発な発言により、実りある会議とさせていただきたい。ご協力をお願いします。

【次第6 諮問】

【次第7 議事事項】

<事務局>

ただいま市長より本推進会議に対し、総合戦略の策定に関し、諮問された。委員の皆さまには、今後の推進会議において、諮問内容についてご審議をお願いします。

ここからの議事進行については岡島座長をお願いします。

<座長>

次第7 議事事項の(1)「現行総合戦略の効果検証」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

まずは、羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要を説明する。

現行の総合戦略は、計画期間が平成27年度から令和4年度までとなっており、今年度が戦略の最終年度となることから、地方創生のさらなる充実・強化に向け切れ目なく進めるため、第2期総合戦略を策定しようとするものである。

第2期総合戦略策定にあたっては、人口減少・少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響による人々の意識・行動の変化や市の事業の休止・縮小等の社会情勢・本市の現状や、国と大阪府の動向を踏まえ、第6次総合基本計画と整合性の取れたものとしたい。

本市の上位計画である第6次羽曳野市総合基本計画と整合性を図り、一体的に取り組みを進めるため、第2期総合戦略の目標年次は令和5年度から令和7年度までの3年間とする。

<「参考資料④年間スケジュール(案)」について事務局から説明>

<「資料1 現行総合戦略の効果検証」について事務局から説明>

<座長>

事務局説明について、不明な点やご意見、気になった点などがあれば発言をお願いします。

社会情勢の変化や国・大阪府の動向も大事だが、皆様がどのように羽曳野の現状を感じているか、これを見て「なるほどそうだ」と思うか、「あれ、そうかな」と思うか、皆様の現状認識、感覚も大事であり、何かあれば出してもらいたい。市民アンケートの結果報告の後に、改めてご意見をうかがうことにする。

(2)「市民アンケートの結果報告」について、事務局より説明をお願いします。

<「資料2 羽曳野市転入・転出者調査」について事務局から説明>

<「資料3 市民アンケート分析資料」について事務局から説明>

<座長>

今日のこの会議では、今の羽曳野市の人口をこれ以上下げないための戦略が、どれくらいいいの

か、どこがいけないのかを、みんなで整理をすることである。感覚も、その理由も大事なことだ。今までの戦略の良かった点や不十分であった点、またその理由について整理し、事務局に意見することで、第2期戦略を策定する上で踏まえてもらうことが大事である。

またこの戦略は、基本は3本柱になっている。1本目の柱は、結婚、子育て、教育の分野、2本目の柱は、産業振興、特に観光で、羽曳野の一番の誇りである豊かな歴史資源を生かしながら、観光を呼び込みながらどうしていくかだと思う。3本目の柱は「いきいきと安心して暮らせる環境の整備」という言葉になっているが、交流拠点、世界遺産の保存、防災など色々な要素が入っているので、その他の重要なこととなる。

皆さんには、3つの柱からご自身が気になる柱について、良い点や不十分な点などを評価し、それぞれその理由を考えてもらいたい。これらを整理していけば、我々の意見になるのではないか。ここでは、みんなが同じ意見でなくてもよい。一致した合意を形成するのが目的ではなく、色々な意見を出して、出てきたことを整理していくことが必要だと思う。

<副座長>

資料3「市民アンケート分析資料」p16~17の「転入したきっかけ」では、「住宅」と「仕事」が一番大きな理由だが、「仕事の都合」には星印がついていない。市の施策や事業が結びつきづらいというコメントだった。

羽曳野市には大きな企業が少なく、現に働き口が少ない。どちらかという住宅地域として機能しているが、働く場所としてはあまり注目されていない。その中で、なるべく企業誘致ができないものか。最近、外環沿いに大きな店舗が最近増えており、特に美原区、松原市あたりの国道309号線沿いに池が埋め立てられ、大規模な商業施設が建っている。

これは若者にとって働く場所になる。工場誘致は難しいかもしれないが、商業施設が誘致できれば、そこで働く人が定住する可能性がある。

市の施策や事業が結びつきづらいのではなく、大型店舗などを誘致できる施策を、これから続けていけばいいと思う。現実には幹線道路沿いには規制があり、なかなか誘致ができないものがある。

私は羽曳野市に来て、起業し、家を買うというパターンを歩んでいる。雇用開発として、羽曳野市で若い方が働く場所を確保したい。それが将来的に、結婚や子どもや住宅につながっていくのが基本だと思う。住宅を買うために来るという方もいるが、まずは若い方が働く場所、そこで働くためにその近所に住む、そこで知り合い、結婚し、子育てをする。そういうパターンを市の施策として力を入れてほしいと思う。

<座長>

今の話は、資料1「現行総合戦略の効果検証」p4の重点項目③、④に関連する。市には総合計画があり、その長期的ビジョンのもとに行政の取組みがある。

まち・ひと・しごと創生総合戦略はそれと整合しながら進められるものだが、総合計画の評価はどうなっているのか。

<事務局>

アンケート結果について、ここでは星印はつけていないが、副座長が言われたことは、市にとって重要なことだと考えている。羽曳野市は大阪市内まで電車でも近く、都心に非常に近い中で自然や田んぼ、世界遺産があり、良好な住宅地としてまちが発展してきたという経緯がある。

大阪外環状線、南阪奈道路、西名阪自動車道など道路交通の便も優れている立地でもある。この間、外環沿道に商業施設をはじめとした開発が行われ、南阪奈道路、側道沿道も含めて、企業立地を促進することは、まちの活性化につながるだけでなく、市としては固定資産税が増える。働く場所や雇用の創出という面でも、非常に有効な施策である。

去年12月に都市計画マスタープランを一部改正した。今までも企業立地は可能だったが、より企業立地をしやすいよう、条件はあるが一定エリアにおいては、大きな商業施設を立地できるよう市としても方向転換をした。そういうことが経済的にも、人口流入、関係人口の増加にも一部寄与するものと考えている。

第2期戦略を考えるにあたって、副座長が言われた施策を盛り込んだものとしていくべきと考えている。

資料1「現行総合戦略の効果検証」p4重点項目③【重点項目達成のための取組例】「〇主要幹線道路沿いなどにおける企業立地の促進」は市として取り組んでいる。各エリアに様々な形で企業立地を促進することで、まちの好循環につながるような施策につなげていくことを考えている。

また、まち・ひと・しごと創生総合戦略は羽曳野市総合基本計画を上位計画にしている。総合基本計画は総合戦略よりも範囲が広く、戦略にない項目も多くある。総合基本計画の達成度評価については毎年の事務事業評価とリンクしながら、事業の進捗・達成度合の状況を把握、評価し、その結果を市Webサイトなどで公表している。

<座長>

総合計画という大きな計画があり、そこには達成度合いを測る指標がある。その指標と総合戦略の指標の関係だが、例えば、総合計画にある指標の中から、この戦略をつくる時にいくつか選ばれたということか。

<事務局>

総合基本計画の指標については、総合戦略においても同じものがある場合は、総合計画との整合性を図っている。総合戦略は地方創生に資するものに特化しているので、総合基本計画よりも細分化されているため、総合戦略で新たに設定しているKPIもある。

<座長>

例えば、地域経済の振興の指標を考えたときに、今は「空家活用件数」と「創業相談窓口への相談件数」があがっているが、他市では例えば、事業所数推移、法人市民税を納めている事業者数推移、企業立地奨励金件数、起業・創業数推移、経営基盤支援件数などの細かな指標をみている市もある。

総合計画でもいろいろな指標があるはずなので、そこからもっと違うものを選んでよいのではと思っていました。

<委員>

金融機関の立場から意見を述べたい。

昨年からりそな銀行では、河内松原支店の法人担当について羽曳野支店に統合しており、現在、羽曳野市、藤井寺市、松原市、富田林市、美原区も羽曳野支店の担当エリアとしている。

資料3「市民アンケート分析資料」p18 クロス集計の転入理由に着目した集計に関して、実際に銀行ではコロナ禍で住宅ローンが意外に伸びている。テレワークでマンションではスペースが狭いことから、自然豊かな所、子どもさんの教育などを考えて都心から郊外へ居住を移す方が結構多い。ここにあるように、30代40代の方、子育て世代の方のローン申し込みが大変増えている。そういう部分でも我々の感覚と一致する結果だと思う。郊外の戸建て住宅ということで、定住率も上がるのではないかと考える。こういった子育て世代をしっかりと抱え込めるような施策が重要になると考えている。

もう一つは、この羽曳野界隈には、非常に業歴も長く、力のある財務内容が良好な製造業の方が多いが、工場が築40年50年経って、工場移転問題で苦労されていることが多い。当時は調整区域内でも工場の建設ができたようだが、建替えなどをしようとするすると制約を受ける場合があり、不動産に関する相談も多い。

移転用地が羽曳野市内にはなく、市外に出でいかざるを得ないという相談もある。難しい部分があると思うが、企業誘致をできるような施策があれば、市内に留まるのではないかと思う。また、市外からの誘致もできるのではないかと考える。

働く場があれば、子育て世代が、自宅も羽曳野市に移って仕事場の近くに住むことは非常に都合も良いと思う。そういった観点からも議論ができればと思う。

<座長>

一つは短期的に見て、コロナ禍もありワークスタイルが変化し、子育て世代の人で住宅ローンが動いているが、そういう子育て世代をどう誘引していくが重要ということだった。

また中長期的な視点で、40年、50年ここで製造業をやってきた方々の工場建替え問題があり、市外に流れるのか、市内に留まるのか、その施策が必要というお話だった。

現行総合戦略の効果検証では2つ目の柱の重点項目③を、次の戦略ではもう少し充実し、もっと入念な作戦立てができるのではないかと思う。

<委員>

企業誘致については、規制についてもある程度緩和されている現状がある。大阪外環状線の話も出たが、西浦地区にあのような施設が来るとは夢にも思わなかった。企業誘致は雇用にもつながる。

羽曳野市は住宅地としての開発が進んできたが、市街化調整区域の部分はまだまだたくさんあり、地区計画の変更など多くの課題や、越えなければいけないハードルがあることは事実である。

また、高齢者にやさしく子育てをしやすい羽曳野、住みよい羽曳野、住んで良かった羽曳野は、常に前提にあり、将来的な大きな目標だと考えている。

羽曳野市は世界遺産と日本遺産を持っており、10月に観光局も設立したが、2025年大阪・関西万博は、もう目の前に来ている。

しかしながら、資料1「現行総合戦略の効果検証」p6のKPI「もずふる応援隊登録者数」は3年前に世界遺産登録されてから、令和2年2,012人、令和3年2,028人と全くと言っていいくらい増えていない。

全国、全世界から大阪・関西万博に来た人がそのまま帰るのではなく、羽曳野市をPRして、来てもらうのが重要となる。

結果として「羽曳野いいやん」「羽曳野に住んでみたい」という人も増え、「羽曳野はこんなにいいところ」と再認識してもらえる。2025年に向けて、羽曳野市としていかに取り組むか、この会議の「まち・ひと・しごと」の中で、特に「まち」では「羽曳野はこういうところ」ということのPRをやっていくことを考えたい。

<座長>

他市の総合戦略の指標と比較して、羽曳野市総合戦略は広報系の指標が不足している印象がある。都市の魅力をつくり、ブランド化してそれをどう発信するか、その発信のところの達成度合いを見る指標が2～3あるのが一般的だと思う。

<委員>

今は、SNSを使って市長の活動報告や市の行事のなどの取組みを発信している。それを通じて市が何に重点を置いて取り組んでいるか知ることができる。まだまだ結果にはつながっていないとしても、PRや広報も前向きに取り組んでいる印象はある。

<座長>

経済振興は大事なことである。また同時に特に戦略の柱1は子育てや教育、高齢者のことも大事だ。そういったことについて意見があれば発言してもらいたい。

<委員>

ハローワークでは今、マザーズコーナーを設けている。今の若い女性の方は、働いていかないといけないということで、保育所の関係で羽曳野市の待機児童ゼロは非常に良いと思う。当ハローワークは4市がエリアだが、仕事を見つけないと保育所にすぐには入れないという相談も多くなっている。

資料1「現行総合戦略の効果検証」p7に「市内大学に通う学生」とあるが、大学の学生さんに授業の中で市のことを話す機会もあると思う。そこで学生さんにSNSで羽曳野市の魅力を発信してもらうこともいいと考える。学生さんに羽曳野市のことを理解してもらうことで、将来羽曳野市に住むことにもつながる。

羽曳野市はベッドタウンなので、電車で大阪市内にも行けるということでは、いい所だと思う。南阪奈道路沿いの道の駅に行くと、安い野菜もいろいろ売っている。また、道の駅での交通整理等、働く機会ができています。このような施設ができ、活性化により進んでいく羽曳野市になったらいいと思う。まずは、学生さん、若い方にいろいろアイデアをもらうことが良いと思う。

<座長>

例えば、羽曳野市には四天王寺大学や大阪公立大学があり、大阪大谷大学も遠くない。学生のインターンシップを募り、広報の職員に教えていただき、実際に写真を撮ってまわる。なかなかヒットはしないかもしれないが、いくつかトライする中で、出てくるものがあれば SNS で急速に広がる。

<委員>

大阪・関西万博では、外国から人が来ることになるので、SNS も外国人から見たときにどうなるか意識することも大切だと思う。一般的な観光地でないような場所にも行くという話も聞いたことがある。様々なケースがあると思うので、色々な方にやってもらいたいのではないかな。

<副座長>

これまで羽曳野市は、PR が不足していたように思う。観光局も設立されたことから、今後はもっと世界に向けて、羽曳野市のアピールをしっかりとやっていけたらいいと思う。

学生とのコラボというと、観光協会では世界遺産の関係で案内動画を外国語で作ってもらったこともある。

<座長>

他市と比べて、広報関連の指標がないことと、市民協働系の指標も少ない印象を持った。

例えば観光では、観光ボランティア数、観光ボランティア研修を受けた人数の推移などが一つの目標になり事業者と市民が協働しながら市の観光を盛り上げていくことがあってもいいのではないかな。

柱1重点項目③「子どもたちの学びに対する支援」では、いじめの認知件数、不登校の子ども数の推移をあげている市もあるが、市民協働では、地域人材の活用を示す指標、スクールサポーターの人数を目標にしている市もある。次期戦略では検討いただければと思う。

<委員>

先ほど話に出た「もずふる応援隊」で第1回目のイベントにはスタッフとして参加した。一緒に企画を練り、活動した方は10数人中に2人の大学生がいた。数年後に再会したが、イベントスタッフとして活動に関わることで羽曳野市に関心が深まったと言っていた。

学生さんの若い感性をしっかりと取り入れていく流れができたらいと思う。地元の学生さんとの連携の話があったが、羽曳野市では市民フェスティバルで学生さんに司会をやってもらうことくらいしかないような気がしていたので、よりいろいろな広範な交流ができたらいと思う。

資料3「市民アンケート分析資料」p27で転出した理由で「治安が悪い」が一番多いのには驚いた。そんなに治安が悪かったかと思ったが、AIの分析では「街灯」「夜道」があげられているので、なるほどと思った。

「羽曳野市は暗い」といろいろな方から言われることがある。羽曳野市、防犯灯設置の補助金を町会に出しているが、町会がない地域もあり、そういった所で手薄になっていることは事実だと思うので、そのあたりをしっかりとやっていかないといけないと思う。

恵我ノ荘駅前についても、狭いことに対する不満があるが、その点を少しずつ解消できるよう、駅

前広場の改修や広げる事業が本格的に始まっている。

<座長>

皆さんの活発の発言があり、現戦略の良い所、今後も継続、強化してほしいことを、一定程度整理できたのではないかと思う。

以上で本日の案件をすべて終了し、進行を事務局へお渡しする。委員の皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

【次第8 閉会】